

10月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川: 左右岸 吉田大橋～当古橋 管轄出張所: 豊川出張所
実施日	令和元年10月31日	実施区間	下条橋～当古橋



今日は、台風19号の記憶も生々しい中、豊川市洪水ハザードマップを片手に下条橋～当古橋を観察しました。このハザードマップは2017年に豊川市から全戸に郵送で配布されたもので、豊川を含む、主要河川の氾濫時の浸水予想とその時の行動を呼びかける内容になっています。ポイントは、2015年の水防法改正を踏まえた、千年に1度の雨量想定を基にした洪水マップも掲載されていることと思います。上記右がそれで、下条橋～当古橋の右岸は広く浸水し、濃いピンクの地域は水深10m以上が予測され、小さな○がたくさん記されているのは浸水だけでなく家屋が倒壊する地域とされています。

下条橋から左岸を上流に向かって進んでいくと、古くからの農家や農業はハウスが多く見られます。また、その中に混じって、真新しい洋風の家屋も点在しています。ほとんどが、2階建てでした。しかし、このエリアは水深3m以上が想定されており、2階に逃げても厳しいと思われました。



千年に1度＝想定最大規模の洪水が予想される時は、どこの避難所逃げるのか、しっかりと家族で、話し合っておくことが大事だと思います。

豊橋市と新城市はこのハザードマップはまだこれから、と聞きました。早期の配布と普及が求められます。豊川市のは英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語にも対応しており、♪です。

上記右の写真ですが、堤防道路は大型車が頻繁に通行するせいでしょうか、亀裂が走っている箇所がありました。3か月くらい観察し、広がっていないので堤防の強度に問題は無いのかも知れませんが、気になります。